

1 中学校学習指導要領解説数学編第2章2A(1)①「数について」(p.40)から以下の文章の空白を埋めよ。

小学校算数科では、数について、身の回りの物を数えることに始まり、負でない(), (), ()について、それらの概念や四則計算の意味について学習している。また、それらの数を用いたり計算したりする学習をしている。

中学校数学科においては、()についての概念を理解するとともに、それらの四則計算の技能を身に付けることについて、資質・能力として、主に次のア、イの育成を目指して指導が行われる。

ア数の範囲の(A)と数の(B)を理解すること

負の数、(C)を導入して、数の範囲を(A)する。ここでは、(A)するときの考え方を理解するとともに、数の集合と四則計算の可能性を理解する。このようにして数の(B)の理解を一層深めることができるようにする。

イ新しく導入された数の四則計算の意味を理解し、それらの数を用いて表したり()したりすること

負の数、(C 無理数)を含む数についての四則計算の意味を理解するとともに、それらの数を用いて、より広範な事象を()にかつ()に表し、計算が能率的にできるようにする。

これらのことは、数学学習全般に関わる基礎的な()及び()として重要である。

次に、数と式の四則計算の(D)を考察することや具体的な場面で活用することについて、小学校算数科では、数の概念を次第に広げながら、計算についての理解を深め、身の回りの事象にそれらを適用して(E)する学習をしている。

中学校数学科においては、数の範囲を(A)したとき、これまで学習した数の計算の(D)と関連付けて、新しく導入された数の四則計算の(D)を考察し()できるようにする。また、様々な事象における(E)の場面において、新しく導入された数を活用できるようにする。

2 内容から解答を導くポイントと考えたことを述べよ。

3 この問題の解答を自己評価し、
気づいたこと、感じたことを述べよ。

■ 5段階自己評価 ()

■